

## 授業概要

社会には男性／女性といった男女二分法に基づく「性差の枠組み」が存在する。しかもそれは、「目に見えるかたち」として存在しているだけでなく、非常に「見えにくいかたち」としても存在している。授業では、学校生活や恋愛などの身近な話題から、労働や社会政策といったマクロな問題まで幅広くとりあげ、そこに性差をめぐる思い込みや、固定的な性別役割が埋め込まれていないか、ひとつひとつ点検していく。

## 授業計画

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 「ジェンダー」って何？～ジェンダー概念について学ぶ            |
| 第2回  | 「ジェンダー学」はなぜ、誕生したの？～「女性学」「男性学」の観点から   |
| 第3回  | そもそも「性差」って何だろう？① 性と性差の多様性について学ぶ      |
| 第4回  | そもそも「性差」って何だろう？② セクシュアル・マイノリティについて学ぶ |
| 第5回  | 教育とジェンダー① 「隠されたカリキュラム」の観点から          |
| 第6回  | 教育とジェンダー② 教育現場における実践                 |
| 第7回  | メディアとジェンダー① 子ども番組におけるジェンダー・バイアス      |
| 第8回  | メディアとジェンダー② コマーシャルのメディア分析            |
| 第9回  | 中間のまとめとワーク                           |
| 第10回 | 労働とジェンダー① 「女性労働」をめぐる問題               |
| 第11回 | 労働とジェンダー② 「男性労働」をめぐる問題               |
| 第12回 | ケアとジェンダー① 「マタニティ・ハラスメント」とは何か         |
| 第13回 | ケアとジェンダー② 「男性とケア役割」についての課題           |
| 第14回 | 恋愛とジェンダー① 「デートDV」について考える             |
| 第15回 | 恋愛とジェンダー② 晩婚化、未婚化社会について考える           |
| 第16回 | 定期試験                                 |

## 到達目標

目には見えにくい「性差の枠組み」を見抜く力（＝ジェンダーの視点）を獲得することが、まずは目標となる。そのうえで、なぜ、そのような「枠組み」が社会に存在しているのか、それが、人々の生き方にどのような影響を与えているのか、自分で考察できるような力を養うことが到達目標である。

## 履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。

遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り、認めない。

## 予習復習

「ジェンダー学」は単に知識として学ぶものではなく、つねに、現実の社会事象と関連づけながら、自らが「問い」を発し、それについて考えていく態度が必要となる。よって、常日頃から、新聞を読む、報道番組を見る、などの態度が求められる。それ自体が、予習・復習となることを理解して授業に参加してもらいたい。

## 評価方法

定期試験試験（80％）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20％）で判断する。

## テキスト

テキストは特に指定しない。毎回のテーマに関連する論文、資料、新聞記事等、印刷して配布する。